

健康経営 セミナー

全ト協

【岡山】県トラック総合研修会館で10日、ドライバーに潜む健康リスクを早期に見つけて健康経営をめざすためのセミナーが開かれた。全ト協が主催するもので昨年に続いて2回目。全ト協が進める運輸ヘルスケアナビシステムについて、受託機関であるNPO法人ヘルスケアネットワーク(OC HIS)の担当者が

説明した。

トラックドライバーが高齢化するなかで健康起因の事故が急増しており、肥満や高血圧、高中性脂肪、低HDL、高血糖など心筋梗塞につながる危険な所見を多く抱える「ハイリスク者」を可視化し、いかに適切にフォローアップできるかが重要になる。3部構成のセミナーは前半、同システムを活用して定期健診の結果をデータ化したことで変わった職場の健康意識など、具体例を示して解説。

後半では、なお受

診率が低迷しているSASの現状と、「SAS重症者の10人に4人が9年後に



死亡」というショッキングな資料も添えてトラック事業者にとって義務ともいえる対策の重要性を指摘した。(長尾和仁)